

児童発達支援事業所における自己評価結果(公表)

公表:令和 6年 5月 22日

事業所名 ことばの教室ことのは

	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
環境・体制整備	1 利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	10	0		
	2 職員の配置数は適切である	10	0	概ね個別対応しており、人員配置的には十分であると考えている。	
	3 生活空間は、本人にわかりやすく構造化された環境になっている。また、障害の特性に応じ、事業所の設備等は、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされている	9	1	イラストや写真、記号などを使い、理解しやすいように工夫している。バリアフリー対策としては、階段に手すりを設置。	バルコニー柵からの転落の懸念があり対策が必要と考える。できるだけ早く安全策を検討実施したい。また、階段の昇降が厳しい児童には、姉妹教室を案内して対応している。
	4 生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっている。また、子ども達の活動に合わせた空間となっている	9	1	活動の目的に合わせて、部屋の活動を分けている。	
業務改善	5 業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画している	9	1	職員面談等で業務内容の意見集約や適宜ミーティングの中で話し合っている。	
	6 保護者等向け評価表により、保護者等に対して事業所の評価を実施するとともに、保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	10	0	毎年実施されている保護者からの意見を参考に事業改善に取り組んでいる。	
	7 事業所向け自己評価表及び保護者向け評価表の結果を踏まえ、事業所として自己評価を行うとともに、その結果による支援の質の評価及び改善の内容を、事業所の会報やホームページ等で公開している	9	1	毎年この自己評価の結果をホームページに公開掲載している。	
	8 第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている	9	1		
	9 職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	10	0	年間通して、独自の研修計画を立てたり、新人職員に対しての新人研修プログラムを策定実施している。また、外部団体で行われている研修会にも積極的に参加している。	
適	10 アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成している	9	1	日常的な訓練の中での気づきや保護者との申し送り、モニタリング等の会議でニーズや課題を確認し、支援計画へ反映している。	
	11 子どもの適応行動の状況を図るために、標準化されたアセスメントツールを使用している	9	1	K式発達検査やその他の検査等を使用し把握している。	
	12 児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「発達支援(本人支援及び移行支援)」、「家族支援」、「地域支援」で示す支援内容から子どもの支援に必要な項目が適切に選択され、その上で、具体的な支援内容が設定されている	9	1		
	13 児童発達支援計画に沿った支援が行われている	9	1		
	14 活動プログラムの立案をチームで行っている	9	1	利用児童の振り返りの中で、効果的な遊びについて話し合っている。	

	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標	
切な支援の提供	15	活動プログラムが固定化しないよう工夫している	10	0		
	16	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせる児童発達支援計画を作成している	10	0	個別活動を基本としているが、個別遊びから2~5人程度の小集団活動などに発展させる工夫をいつも試みている。	
	17	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	8	2	前日に予定表を作成し役割分担を共有している。また、活動の振り返りの中で動きや反省等を次回活動へ繋げている。	
	18	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	10	0	活動後に30分程度のミーティングを行い情報を共有。休みの職員も共有できるよう簡単な議事録を職員間のグループLINEにて共有している。	
	19	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	10	0	個別記録は主に言語聴覚士が行っており、記録の時間も確保するようにしている。記録漏れがないかのチェック作業も職員相互で実施。	
	20	定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断している	10	0	モニタリング会議に参加し、ミーティングにて全体へ共有。定期的に評価シートを使い評価を行い、適宜支援計画に反映させている。	
関係機関や保護者との連携関係機関や保護者との連携	21	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	10	0	主に担当の言語聴覚士が会に参加。参加できない場合は、児童発達管理責任者が参加するか又は相談員へ教室での様子を情報文書や口頭にて情報提供している。	
	22	母子保健や子ども・子育て支援等の関係者や関係機関と連携した支援を行っている	7	3		
	23	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障害のある子ども等を支援している場合)地域の保健、医療、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携した支援を行っている	2	8		医療的ケア児がいないが、在籍の場合には保護者と基本連携をとりながら必要に応じて関係機関とも連携等が取れるように体制整備する予定。
	24	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障害のある子ども等を支援している場合)子どもの主治医や協力医療機関等と連絡体制を整えている	2	8		医療的ケア児がいないが、在籍の場合には保護者と基本連携をとりながら必要に応じて関係機関とも連携等が取れるように体制整備する予定。
	25	移行支援として、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚部)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている	8	2	利用開始前や移行のタイミングで関係者会議に参加。各機関と顔合わせや情報共有を実施している。	
	26	移行支援として、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている	9	1	利用開始前や移行のタイミングで関係者会議に参加。各機関と顔合わせや情報共有を実施している。	
	27	他の児童発達支援センターや児童発達支援事業所、発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	8	2	助言や連携をもらうといったことは少ないが、主に研修等に参加させてもらう形で関係性を維持。	
	28	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、障害のない子どもと活動する機会がある	5	5	定期的な交流はしておらず、公園等で偶然に出会うタイミングで遊具を共有したり、一緒に遊べるようにサポートをしている。	
	29	(自立支援)協議会子ども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加している	3	7	昨年度は参加していたが、今年度は参加できず。	取締役が隣の自立支援協議会全体会の委員として参加しているが、次年度は糸満市の自立支援協議会などの参加を検討している。

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
	30	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	10	0	利用日に対面での申し送り等で家庭と事業所、また保育園等の情報を共有をし、支援の内容について意見をもらったりする。また、対面時だけでなく、公式LINEを使い、ママに体調の様子や家庭、保育園の情報の共有も行なったりしている。	
	31	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)の支援を行っている	7	3	ペアレント・トレーニングの観点から、申し送り時に児童との関わり方等の助言を行なっている。	保護者会等のニーズもあることから、次年度は保護者間の交流等の企画も含めペアレント・トレーニングのプログラムを企画してみたい。
保護者への説明責任等	32	運営規程、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	10	0	利用契約時にそれらの説明を行っており、変更等があれば適宜説明を行なっている。	
	33	児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」のねらい及び支援内容と、これに基づき作成された「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ている	10	0		
	34	定期的に、保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	10	0	申し送りのタイミングや公式LINEなどで情報を共有するタイミングで内容を聞き、後日対面でお話をしたり、電話をしたりして助言等を行なっている。	
	35	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している	2	8		まだ開催したことがないため、保護者会のニーズを確認し、単独か合同開催などニーズがあれば検討したい。
	36	子どもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応している	10	0	対面での要望があれば速やかに対面でお話をしている。申し入れがあった場合は、迅速に対応し会社全体に共有している。	
	37	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	6	4	会報などは出しておらず、活動については、日々の申し送りや公式LINE、ブログ等で発信している。	
	38	個人情報の取扱いに十分注意している	10	0		
	39	障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	10	0	児童に対しては、イラストや写真等で意思疎通を図っている。	該当する保護者はいないが、居れば配慮した情報伝達を行う予定である。
	40	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている	3	7	特に地域の人を招待することはないが、普段の散歩等の活動の中で地域の方には積極的に挨拶をし、施設の存在や活動内容をアピールしている。	
	非常時等	41	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や保護者に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施している	9	1	各種マニュアルを策定し、職員がいつでも確認できるよう設置。また、適宜保護者に当教室の対応手順を説明等を行なっている。
42		非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	9	1	年に2回防火管理者立ち合いの下で、避難訓練や通報訓練を中心に実施。	
43		事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認している	10	0	事前に保護者より情報を得て、万一の場合の対処法を確認、職員全体で周知している。	
44		食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている	10	0	事前に保護者よりアレルギーの有無について確認。対応について、保護者から確認し、職員全体で周知している。	

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
の 対 応	45	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	10	0	当教室だけでなく、大きな事故に繋がるようなケースについては、全教室に対し周知している。	小さなヒヤリハットも記載し、いつも小さなヒヤリハットを逃さずに職員全体で共有することを心がけていきたい。
	46	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	10	0	外部の研修会に参加し、全職員にも研修内容を報告などしている。また、虐待防止委員会でもさまざまな事例検討などを行ったりしている。	
	47	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載している	9	1	やむを得ず身体拘束を行う場面が想定される児童については、個別支援計画に記載。また、保護者に対しても説明を行なっている。	